

# 福祉分野における人材育成に関する産業界ニーズ調査研究（その2）

## Needs Surveillance Study of Industry World on Human Resources Development in the Welfare Field Part 2

今井 訓子<sup>1</sup>      川村 博子<sup>1</sup>      漆澤 恭子<sup>1</sup>      黒田 静江<sup>1</sup>  
 松本 和江<sup>2</sup>      安田 宣子<sup>2</sup>      橋本三枝子<sup>2</sup>      星野 恵子<sup>2</sup>

平成25年2月に関係団体の協力を得て実施した専門力・実践力・人間力に関する葉書アンケート及びピアリング調査を参考として、平成26年2月本学2年生を対象とした職業能力評価アンケート調査を実施した。この学生達が卒業後の平成26年6月に同じアンケートを実施した。その結果、コミュニケーション力、ストレスコントロール力、専門力に不安を感じている者に対するフォローアップを行い、職場定着支援を行った。

キーワード：保育士、職場定着支援、人材育成、介護福祉士

### I 目的

平成25年度に実施した「福祉分野における人材育成に関する産業界ニーズ調査研究（その1）」の調査結果から産業界が必要とするのは専門力・実践力・人間力であると明らかになった。その結果を踏まえ、本学の学生自身は自分の職業能力をどのように評価しているかを探るとともに、就職後はどのように意識が変化するかを明らかにすることを目的として本調査研究を実施した。

### II 職業能力評価アンケート調査

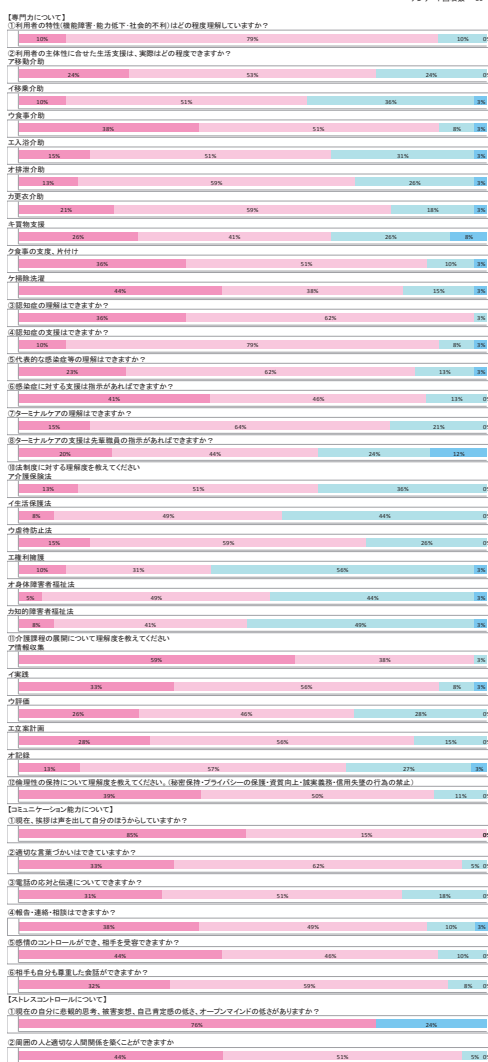
#### 1 調査対象・方法

短大地域介護福祉専攻（以下、「地域」という）と児童障害福祉専攻（以下、「児童」という）の「キャリアガイダンスII」の授業において平成26年2月本学2年生を対象とした職業能力評価アンケート調査を実施した（資料参照）。

本学生達が卒業後の平成26年6月に同じアンケート調査を実施し、その結果を比較し、コミュニケーション力、ストレスコントロール力、専門力に不安を感じている者に対するフォローアップを行い、職場定着支援を行った。

### 【地域2年】集計結果

アンケート回収数 39



1 植草学園短期大学福祉学科  
 2 植草学園短期大学キャリア支援課

## 2 調査結果

### (1) 平成26年2月2年生対象の職業能力評価アンケート調査

#### 1) 回収率

「地域」40名中39名、児童97名中92名に行い、全員回収した。

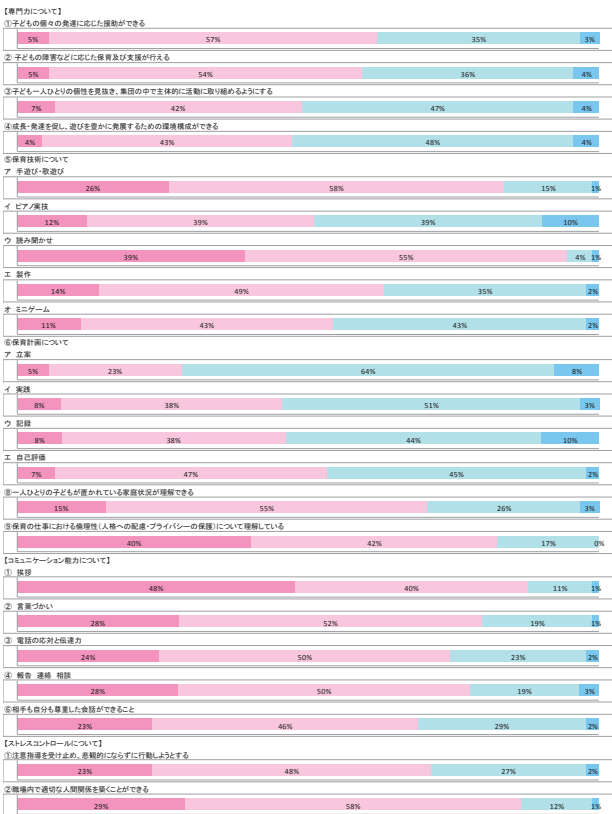
#### 2) 調査結果

「地域」の結果を前ページに示す。「移乗介助」「入浴介助」に「ややできない」との答えが多く、法的な知識に「ややできない」が多かった。また、ストレスコントロールのオープンマインドでは「できる」と「できない」の二極化が見られた。

「児童」の結果を下記に記す。

### 【児童2年】集計結果

アンケート回収数 92



卒業前の自己評価アンケートでは、「保育計画」について、「できない」「あまりできない」が大変多かった。「環境構成」「主体的な活動の取り組み」項目でも同様なことが言える。また実技関係では、保育技術の「ピアノ実技」と「ミニゲーム」に、「できない」「あまりできない」が多かった。

### (2) 平成26年6月卒業生対象の職業能力評価アンケート調査

#### 1) 対象

全卒業生のうち専門職として就職した、地域34名、児童82名。

#### 2) 回収率

「地域」29.4% (10人)、「児童」28.0% (23人)。

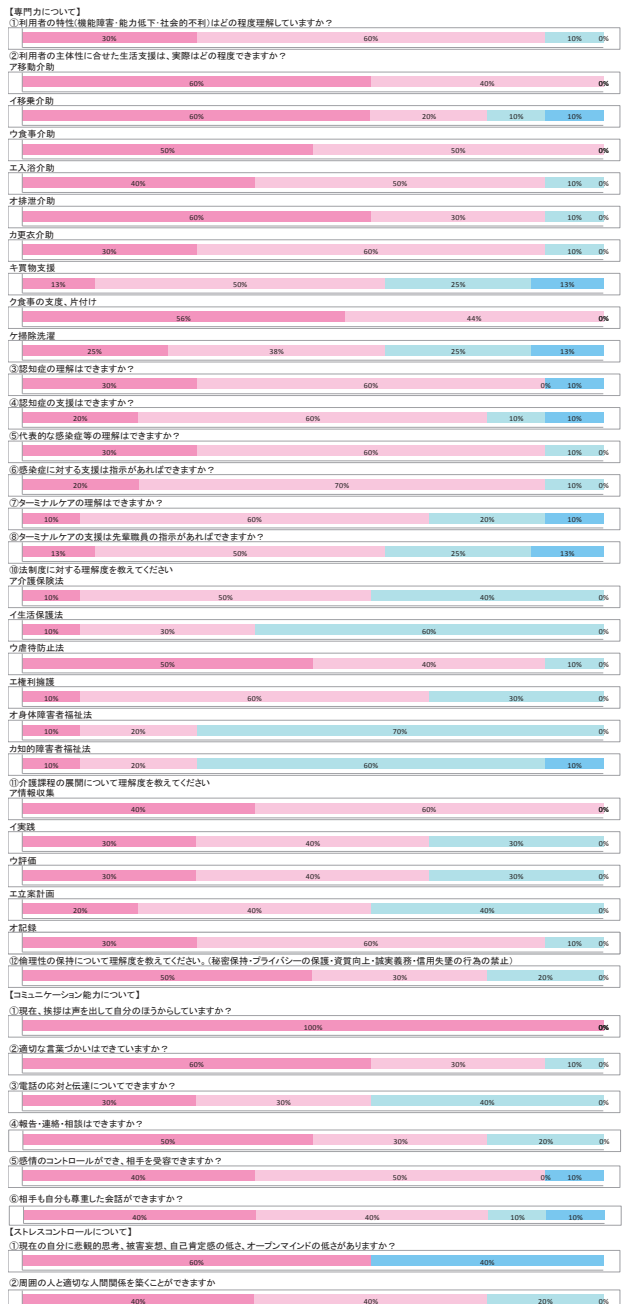
#### 3) 調査結果

##### 〈地域〉

生活支援については買い物支援・掃除支援が「で

### 【地域】集計結果

アンケート回収数 10



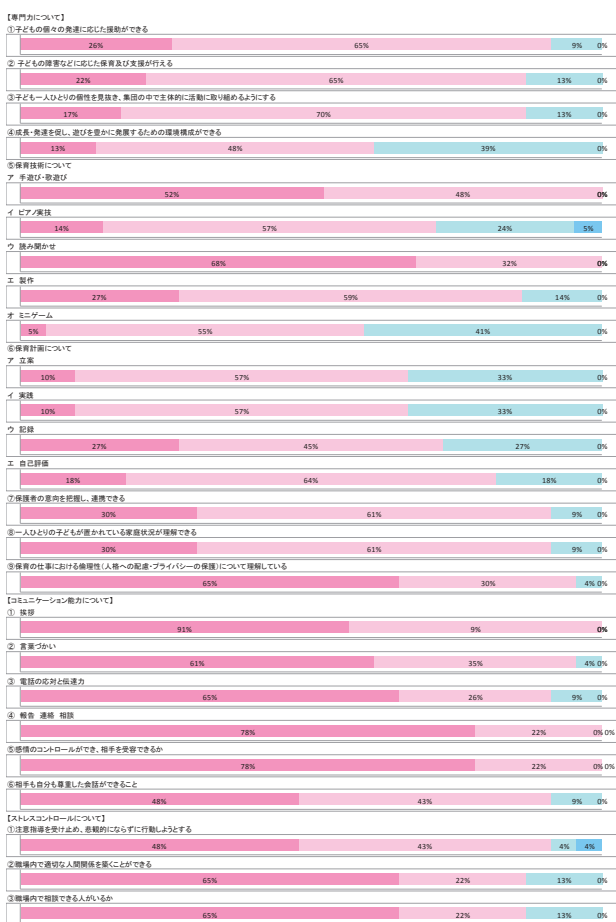
きない」「あまりできない」としていたが、他の項目では「できる」「ややできる」としている。また、ターミナルケアについては自己評価が低い。さらに法制度に関しても虐待防止法を除いて、半数前後が「できない」や「ややできない」としている。

介護過程の展開については「実践」「評価」「立案計画」で「あまりできない」との回答が見られた。電話の対応が「ややできない」とする者やストレスコントロールについて自己肯定観の低いものが見られる。

卒業後の自己評価アンケートの全体を見ると、「保育技術（ミニ・ゲーム）」と「環境構成」について、「あまりできない」と感じている人が多かった。そして次に「あまりできない」が多かったのは、「保育計画立案」「保育実践」「保育記録」であった。

【児童】 集計結果

アンケート回収数 23



(3) 在学時と就職後の意識変化について

アンケートに回答した「地域」10人、「児童」23

名について、卒業時の調査結果と比較したグラフを示す。

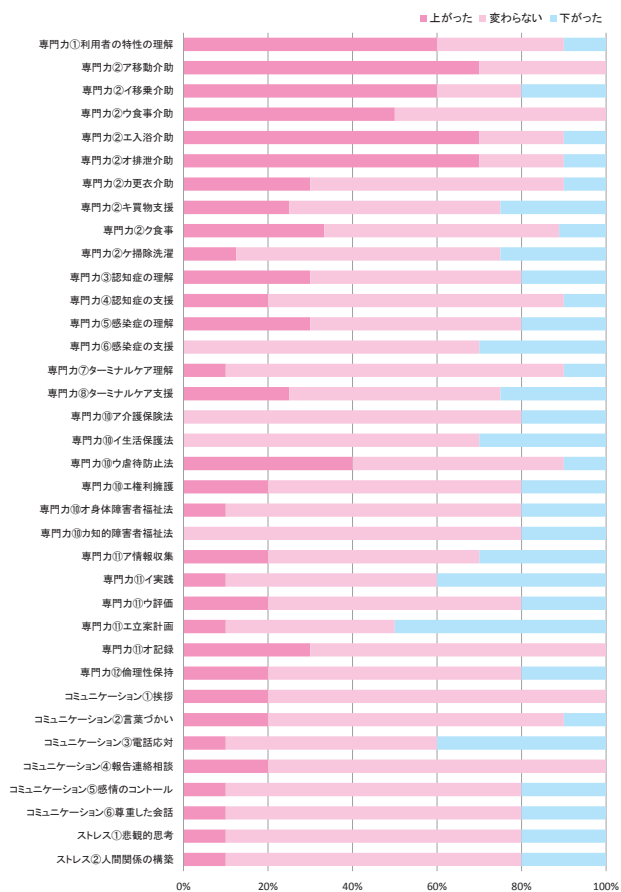
1) 調査結果

「地域」の結果

全体的に自己評価は上がっている。特に、特性の理解や日常業務として行われている移動・移乗・入浴・排泄・食事介護はできると答えた率が高くなった。その他の項目は卒業時の自己評価と変わらないものが多い。また、感染症についての支援や生活保護法についての知識、介護過程の記録では自己評価が変わらないまたは下がっていた。

そこで、個別に検討した結果、自己能力評価が下がった項目が多い卒業生が見られた。

【地域】 前回アンケートとの比較集計結果



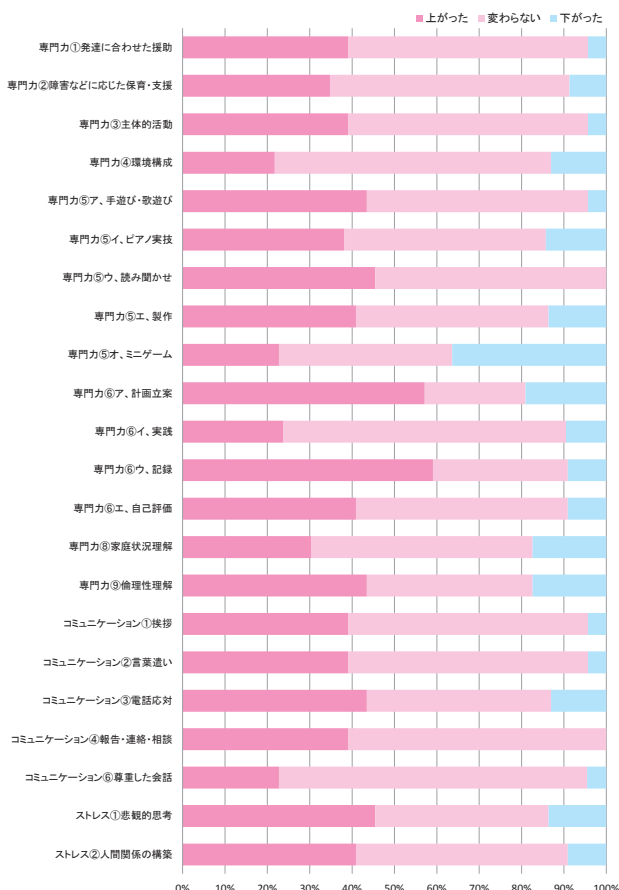
「児童」の結果

同一人物の卒業前の評価と卒業後の評価を比較してみると、一番下がったのは、「保育技術（ミニ・ゲーム）」であった。また10項目については、卒業

前よりも各自の評価が上がっていた。

特に「保育計画（立案）」と「保育計画（記録）」については、卒業前に比べて自己評価が上がった人が半数にのぼっていた。

#### 【児童】 前回アンケートとの比較集計結果



#### (4) キャリアアドバイザーによる25年度卒業生の電話でのヒアリング調査結果

アンケート結果から卒後フォローを兼ねて詳細なヒアリング調査を行った。

〈地域〉

##### 1) 対象・方法

平成26年10月に、キャリアアドバイザー（以下CA）により自己能力評価のアンケート調査（同じ内容）の解答のあった地域10名、児童21名に対して電話でのヒアリング調査を実施した。

##### 2) ヒアリング内容

卒業生に対しての質問は①専門力に関するもの②コミュニケーション能力に関するもの③ストレスコントロールに関するものの3項目である。

#### 3) 結果

〈地域〉

就業先によって支援内容が異なり、買い物支援など行っていない項目はできないと答えた場合があった。しかし、3名が自己能力評価が卒業前より卒業後に下がった項目が多く、その状況を以下に記す。

① 女性で介護老人保健施設に勤め、重度の認知症棟に配属となる。卒業前の本校の授業で修得した技術、知識では現場での複雑な認知症の症状に対処しきれず処理ミスが続いた。①の専門力の移乗介助、認知症の理解、それに合わせた支援、ターミナルケアの理解、それに合わせた支援、知的障害者福祉法の理解が卒業前より入職2ヶ月後に「4できない」と下がった自己評価となった。

教員に相談したり、先輩職員にアドバイスをもらっていたところ、施設側がUさんの勤務状態を考慮して一般棟に配転させ様子を見た。10月にCAがUさんに電話での聞き取りを実施した際には、重度認知症対象者以外ならば問題も無く就労していると答える。

② 男性で、知的障害者のグループホームに入職した。利用者の特性の理解、移乗介助、介護過程の立案、計画、生活保護法、身体障害者福祉法が「2少しできる」から「3あまりできない」と卒業前より下がった。③のストレスコントロールの人間関係の構築も「2少しできる」から「3あまりできない」に下がった。長時間労働も重なり、職場から逃げ出したい思いが強かった。しかし、上司から研修を勧められたり、会計の仕事を任されたりするようになり、信頼されていると感じるようになってからは頑張っている仕事をしているのである。利用者の特性の理解、介護過程の展開、については、入職直後は慣れていないせいもあり自己能力評価は低かったが、障害者の特性（特に自閉症）を理解するうちに6ヶ月後は担当している6人の支援計画は完璧に「1できる」と返答した。法律については研修中である。

③ 特別養護老人ホームに入職した女性である。感染症の理解、支援が卒業前より下がった。また、介護過程の展開の実践と計画立案、ストレスコントロールも卒業時より下がっていた。しかし、CAの聞き取り調査時には、感染症対策について

は疥癬の処置の介助体験があり、できると自己評価しており、2人の先輩が相談にのってくれている為、ストレスコントロールもできるようになった。

#### 〈児童〉

卒業前に比べ、3～4項目で自己評価が下がった4名について、ヒアリング調査結果と下がった項目内容を記すと以下のようである。

- ① 企業立保育園に勤めたが3ヶ月後にストレスが原因で体調を崩し、休職した。その後学校にも相談し再就職を考えている。

アンケートでは、「コミュニケーション能力（注意指導を受け止め、悲観的にならずに行動しようとする）」が、「2少しできる」から「4できない」に下がっていた。

- ② モンテッソーリ教育とピアジェ理論による保育を行っている私立幼稚園に勤め3歳児担任をしている。

アンケートでは、「専門力（子どもの個々の発達に合わせた援助ができる）」「専門力（子ども一人ひとりの個性を見抜き、集団のなかで個々が主体的に活動に取り組めるようにする）」「コミュニケーション能力（適切な言葉遣いができる）」「ストレスコントロール（周囲の人と適切な人間関係を築くことができる）」など13項目について「3あまりできない」となっており卒業前より下がっていた。

- ③ 私立幼稚園に就職したが、同系列の保育園勤務となり、夕方からは学童保育に従事している。アンケートでは、「ストレスコントロール力（周囲の人と適切な人間関係を築くことができる）」が、「1できる」から「3あまりできない」に下がっていた。

- ④ 私立幼稚園に勤め3歳児の担任をしている。アンケートでは「専門力・保育技術（ミニゲーム）」「同（保育計画立案）」「コミュニケーション能力（電話の対応と伝達ができる）」が、「2すこしできる」から「3あまりできない」に下がった。

### 3 考察

アンケート調査結果では自己評価が下がった者でもヒアリング調査ではあまり深刻な状況は見られな

かった。ただし、「児童」では1名が離職、2名については今後のフォローが必要と考えられる。

ヒアリング調査結果が比較的良好な状況であったのは、アンケート調査を実施した6月から、ヒアリング調査を実施した10月までの間に、行事や話し合いが行われ、保育方針の理解が深まり、同僚との関係も良くなる等から、前向きに物事を考えられるようになったためではないかと推察される。

以上を勘案しつつ専攻ごとの考察を以下に記す。

地域については、介護施設では入職時に基本的な知識、技術を身につけていればOJTで教育し、育てるという体制である。卒業時の学生は実習を経ているもののその時点の職業能力自己評価は実際の能力と合わないことが考えられる。入職し、短時間で様々な利用者の状況に合わせた介護が要求された時にうまくいかないことが自己評価を下げると考えられる。入浴や食事介護など日常の支援項目は経験によって技術がみがかれ、3ヶ月で自己評価があがったが、ターミナルケアや感染対策は遭遇する機会が少なく、できないと自己評価したといえる。現実に直面しなければ知識・技術ともに身につかないことが窺われる。しかし、半年以上経過した時点で殆どの学生が「できる」と変わっている。すなわち職場での指導の効果がでるのは短期間では難しいことがわかる。

また、技術の自己評価が低いとそれがストレスになり、その時の先輩の支援や職場の配慮が自己肯定観を培うのに不可欠だといえる。

介護過程の展開については、学校で記録については学んでいても、現場の利用者に即した支援計画や実践は未経験であるため不安があると推察される。

法律や制度については学校で学んでいても、ある程度支援技術ができてから、さらに、実践に則った知識の習得が必要であると考えられる。

児童について、就職して3～4ヶ月という時期は、まず職場に慣れ、仕事を覚えることに主力が置かれてしまい、子どもの発達への理解もまだ浅く、寄り添う保育ができていないことが推察される。「専門力・保育技術（ミニゲーム）」では、本人が考えていたこと子どもの状態に食い違いがあったり、複数担任制（低年齢児）ということもあり、ミニゲームを実際に行う機会がなかった人も含まれ

ていたことが、評価を下げた原因であったと考えられる。ヒアリング調査では「子どもが思ったように動いてくれない」と言っていたが、そのように自分が困ったと感じ、次に実践するときにはもっと工夫しようとする状況の中から、子どもの発達や興味の動向について、真剣に考えるようになると思う。そしてこのようなことから保育者としての成長が始まると考える。

在学中の保育・教育実習では、周到的な準備を行って子どもたちの前に立ち、ゲームを行ったであろう。また授業内でも保育現場を想定したシミュレーションを発表しあう中で学んではいるが、年齢が低いほど指導上の難しいことがいろいろある。たくさん保育実践を重ねることで、今、目の前にいる子どもの発達や個性を深く理解できるようになり、子どもが喜びそうなミニゲームを探したり、自ら考え創り出していくことができるようになると思う。

「専門力・保育計画（立案）」でも同様のことが言えると思う。子どもの発達を理解し、また環境をどのように取り込みながら遊んでいるのかを理解したうえで、保育計画を立案する必要がある。実習園と就職先が同一の場合は、少し慣れているであろうが、そうでない場合は、毎日いろいろな事で精一杯なので、保育計画立案だけに時間をかけられないこともあり、「あまりできない」と感じる人が多かったのではないかと推察される。

「専門力・家庭状況の理解」の大切さについては、授業で学んでいるが、実習現場での必修項目には含まれてはいない。家族支援は、文字から学んだことだけでは、到底対応できることではなく、人生経験も大切な要因になるなど考えると、卒業後、現場での経験を通して学んでいくことが、求められているのではないかと考える。

両専攻に共通することとして、在学中に学ぶことは基本的なことであり、就職後に身につけて知識・技術になることである。研修をうけたり、職場の上司や先輩から支援があると「できない」ことがストレスと直結せずに成長していく。しかし、「できない」と自覚することで自己否定してしまうと、職場に支援を受け入れられず離職につながると推測できる。

経験を重ね、問題に直面し周囲のサポートを受けながら乗り越えていくことで専門性が高まると推察される。

#### 4 今後の課題

本調査は平成24～26年度にわたり文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の補助金を得て実施したものである。当該補助金は27年度で終了することから、今後の事業の継続は困難となった。

卒業生の追跡調査は就労の継続、職場定着支援にとっても有効であると考えられることから今後の継続が望まれる。

本年度実施した職業能力アンケートは卒業時と就業後間もない6月であったため、まだ職場に慣れていないことから来る自信の喪失が大きく影響していると考えられた。また、就職して間もないためか回収率も非常に低い結果となった。

就職後1年またはそれ以降の自己による職業能力評価がどのように変化するか、自信喪失した者に学校としてどのような支援を行うことが職場定着に有効であるか探ることが、今後さらに重要である。予算と人員の削減という現実の中で、どのようにすれば卒業生の職場定着支援を行うことができるのか、今後に残された大きな課題である。

(参考資料)

平成 年 月 日 ( )

専攻	学籍番号	氏名	希望施設
地域介護福祉 1年 2年 専攻科			1. 高齢者関係施設 (①特養②老健③その他) 2. 障害者関係施設 3. その他
<b>【専門力について】</b>			
①利用者の特性(機能障害・能力低下・社会的不利)はどの程度理解していますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
②利用者の主体性に合わせた生活支援は、実際はどの程度できますか?			
ア、移動介助			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
イ、移乗介助			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
ウ、食事介助			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
エ、入浴介助			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
オ、排泄介助			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
カ、更衣介助			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
キ、買い物支援			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
ク、食事の支度、片付け			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
ケ、掃除・洗濯			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
③認知症の理解はできますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
④認知症の支援はできますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑤代表的な感染症等の理解はできますか? (疥癬・ノロウイルス・インフルエンザ・食中毒・結核等)			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑥感染症に対する支援は指示があればできますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑦ターミナルケアの理解はできますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑧ターミナルケアの支援は先輩職員の指示があればできますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑨災害時のケアの知識として、今自分にできることは何ですか?下から選んで○をつけてください。(複数選択可) ア、報告・連絡・相談等他職種との連携を判断できる イ、利用者・自分の安全確保 ウ、他者の心のケア エ、物品調達(指示されてできる含) オ、炊き出しの参加 カ、発電機の使い方 キ、AEDの取り扱い ク、軽傷の応急処置 ケ、テント・仮設トイレの設置(指示されてできる含)			ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ
⑩法制度に対する理解度を教えてください。			
ア、介護保険法			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
イ、生活保護法			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
ウ、高齢者、障害者の虐待防止法			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
エ、権利擁護制度			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
オ、身体障害者福祉法			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
カ、知的障害者福祉法			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑪介護過程の展開について理解度を教えてください。			
ア、情報収集			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
イ、実践			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
ウ、評価			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
エ、立案計画			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
オ、記録			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑫倫理性の保持について理解度を教えてください。 (秘密保持・プライバシーの保護・資質向上・誠実義務・信用失墜の行為の禁止)			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
<b>【コミュニケーション能力について】</b>			
①現在、挨拶は声をだして自分の方からしていますか?			1. 自分からしている 2. 相手からされればしている 3. 会釈はする 4. しない
②適切な言葉遣いはできていますか?(敬語・丁寧語)			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
③電話の応対と伝達についてできていますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
④報告・連絡・相談はできますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑤感情のコントロールができ、相手を受容できますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑥相手や自分も尊重した会話ができますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
<b>【ストレスコントロールについて】</b>			
①現在の自分に悲観的思考、被害妄想、自己肯定感の低さ、オープンマインド(違う意見の人の話に耳を傾けられる)低さがありますか?			1. ある 2. ない
②周囲の人と適切な人間関係を築くことができますか?			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない

平成 年 月 日 ( )

専攻	学籍番号	氏名	希望施設
1年 2年			1. 幼稚園 2. 保育園 3. 児童福祉施設 4. 社会福祉施設(成人) 5. 進学 6. 未定 具体的な施設 ( )
<b>【専門力について】</b>			
①子どもの個々の発達に合わせた援助ができる			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
②子どもの障害などに応じた保育および支援が行える			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
③子ども一人ひとりの個性を見抜き、集団の中で個々が主体的に活動に取り組めるようにできる			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
④子どもの成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成ができる			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑤保育技術について			
ア 手遊び・歌遊び			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
イ ピアノ実技			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
ウ 読み聞かせ			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
エ 製作			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
オ ミニゲーム			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑥保育計画について			
ア 計画立案			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
イ 実践			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
ウ 記録			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
エ 自己評価			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑦一人ひとりの子どもや施設利用者が置かれている家庭状況が理解できる			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑧保育や生活支援の仕事における倫理性(人格への配慮・プライバシーの保護)について理解してる			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
<b>【コミュニケーション能力について】</b>			
①現在、挨拶は声を出して自分の方からしているか			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
②適切な言葉遣いはできているか(敬語・丁寧語)			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
③電話の応対と伝達ができているか			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
④報告・連絡・相談はできているか			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
⑤相手も自分も尊重した会話ができるか			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
<b>【ストレスコントロールについて】</b>			
①注意指導を受け止め、悲観的にならずに行動しようとする			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない
②周囲の人と適切な人間関係を築くことができるか			1. できる 2. 少しできる 3. あまりできない 4. できない